

講義年月日	2002年12月11日 (水)
講演者	保坂 睦氏・古賀 理恵子氏 (慶應義塾大学三田メディアセンター)
テーマ	三田メディアセンターにおける研修計画の実際 海外の図書館での研修
講義内容	<p>1. 研修目的 世界中の情報を検索・収集できる今日において、情報を提供する大学図書館の国際化はさらに重要になっていく。海外研修を通じて国際感覚を身に付けた「専門職」としての図書館員の育成を図る。</p> <p>2. 慶應義塾大学海外研修概要 カリフォルニア大学サンディエゴ校 (以下UCSD) との図書館員交換協定による海外研修</p> <p>(1) 交換協定期間 1999年～2001年の4年間</p> <p>(2) 慶應義塾大学からの派遣概要 研修期間 6ヶ月 研修部署 : UCSDのメインライブラリーのGeisel Library 研修内容 : レファレンス業務などのパブリックサービス部門が中心</p> <p>(3) UCSDからの派遣概要 研修期間 3ヶ月 (米国雇用形態により) 研修部署 : UCSD側の希望および本人のインタビューにより決定 研修内容 : 研修部署同様</p> <p>3. 研修の実際</p> <p>(1) 慶應義塾大学からの派遣 保坂氏 1999年7月～12月 古賀氏 2001年1月～6月 UCSD内にあるLibrary から SSHL (Social Sciences & Humanities Library) および IRPS (International Relations / Pacific Studies Library) を研修先に選択し Research Service (レファレンス、選書系) についての研修を行った。 スタッフと研修計画を話し合い、定例ミーティングに参加し業務の流れを把握する。カウンターサービスのオブザーバーとして実際に利用者からのレファレンスを受ける。UCSD内の各図書館や他大学図書館の見学。 ALA (American Library Association) 総会への参加 (古賀氏)。</p> <p>(2) 研修について UCSDでの研修はスケジュールの組まれた受身の研修ではなく、研修内容は事前に自分で考え計画する。実務やスタッフ会議にも積極的に参加することができる。自分がなにを学びたいのか「明確な意思と計画を立てて臨み、主体的に行動することが必要。」</p> <p>(3) UCSDからの派遣 五十住 早苗氏 1999年4月～6月 (研修当時 Japanese Studies Librarian) 三田メディアセンターの業務全般と所蔵調査、資料調査および収集業務。 慶應義塾大学各メディアセンター見学、他大学図書館訪問を通じて米国図書館との相違を認識。 書店・出版社訪問などを通じ流通の把握。</p> <p>(4) 外から見た日本の図書館事情について (疑問) 閉架式が多く配架が複雑で探すのが困難では。 目録業務のアウトソーシング比率が高く、専門職が育ちにくいのでは。 人事異動について本人の承諾なしに辞令がでるのはなぜ (慶應義塾大学)。</p>
感想	日本の2歩、3歩先を行く米国の大学図書館研修は (日本とのギャップを感じつつも) 図書館員としてのモチベーションが上がり、将来の自館運営についても得るものが大きいのではと感じた。
配付物	「海外の図書館での研修」
備考	加藤好郎、保坂睦「慶應義塾図書館 (メディアセンター) における図書館員の国際交流」『大学図書館研究』、No. 59、2000.9、p. 40-49.